

オバデヤ書

第一章一 オバデヤの預言主エホバ、エドムにつきて斯いひたまふ我らエホバより出たる音信を聞けり一人の使者國々の民の中に遣されて云ふ起よ我儕起てエドムを攻撃んと我汝をして國々の中において小き者たらしむ汝は大に藐視するなり三山崖の巖屋に居り高き處に住む者よ汝が心の傲慢なんちを欺けり汝心の中に謂ふ誰か我を地に曳くだすことを得んと四汝たとひ驚のごとくに高く擧り星の間に巢を造るとも我そこより汝を曳くださんエホバこれを言たまふ五盜賊汝に來り強盜夜なんちに來り竊むともその心に滿るときは止ざらんや嗚呼なんちは滅されて絶ゆる葡萄を摘む者汝にいたるも尚幾何を遣ざらんや六嗚呼エサウは捜されその隠しおける物は探りいださる七汝と盟約を結べる人々はみな汝を國境に逐やり汝と和好をなせる人々はみな汝を欺きて汝に勝ち汝の食物を食ふ者等は汝の下に縲を設く彼の中には穎悟あらず八エホバ言たまふ當日には我智慧ある者をエドムより絶除き穎悟をエサウの山より絶除かざらんや九テマンよ汝の勇士は驚き懼れん而して人みな終に殺されてエサウの山より絶除かるべし一〇汝はその兄弟ヤコブに暴虐を加へたるに因て恥辱なんちを蒙はん汝は永遠に至るまで絶るべし一 汝が遠く離れて立をりし日即ち異邦人これが財寶を奪ひ他國人これが門に進み入りエルサレムのために

籤を擧たる日には汝も彼らの一人のごとくなりき二 汝は汝の兄弟の日すなはちその災禍の日を觀るべからず又エダの子孫の滅亡の日を喜ぶべからずその苦難の日には汝口を大きく開べからざるなり三 我民の滅ぶる日には汝その門に入べからず其滅ぶる日には汝その患難を見べからず又その滅ぶる日には汝その財寶に手をかく可らず四 汝路の辻々に立てその逃亡者を斬べからず其患難の日にこれが遣る者を付すべからず一五エホバの日萬國に臨むこと邇し汝の爲せること汝も爲られ汝の應報なんちの首に歸すべし一六 汝等のわが聖山にて飲しごとく萬國の民も恒に飲ん即ちみな飲かつ啜りて從前より有ざりし者のごとく成ん一七 シオン山には救はるる者等をりてその山聖所とならんまたヤコブの家はその産業を獲ん一八 ヤコブの家は火となりヨセフの家は火燄となりエサウの家は藁とならん 即ち彼等これが上に燃てこれを焚んエサウの家には遣る者一人も無にいたるべしエホバこれを言なり一九 南の人はエサウの山を獲平地の人はペリシテを獲ん又彼らはエフライムの地およびサマリヤの地を獲ベニヤミンはギレアデを獲ん二〇 かの虜はれゆきイスラエルの軍旅はカナン人に屬する地をザレパテまで取んセパラデにあるエルサレムの俘虜人は南の邑々を獲ん三 然る時に救者シオンの山に上りてエサウの山を鞠かん而して國はエホバに歸すべし